

# 光と影の魔法の世界へ！

佐川美術館  
学芸員 相田 莉央



新型コロナウイルス感染症がきっかけとなり、オンラインやリモートという言葉が私たちの生活に溶け込んできました。友人や家族とのオンライン通話やイベントのライブ配信など、スマートフォンやタブレットを通して、映像を見たり音を聞くことで、リアルに近い体験ができるようになったのです。

しかし、これらは画面を通して自宅でも楽しむもの。やはり現地に訪れて、その場の空気や雰囲気を感じることが、記憶に残るかけがえのない体験になるはずです。自粛ムードを経験したからこそ、そういう生身の体験に一層価値を感じるのではないのでしょうか。

佐川美術館では、体感型アートをテーマとした展示イベント「魔法の美術館Ⅲ」を開催しています。体感型アートは、文字通り体で感じて直感的に楽しむことができるアート作品です。スクリーンの前で手をかざすと自分の影が動き出したり、体全体を動かすと色とりどりの光がはじけるといった、人の動きに反応するデジタルアートの空間では、自分が作品の中に入り込むような特別な感覚を味わうことができます。

ただの映像作品ならスマートフォンやタブレットで充分かもしれませんが、実際に体験する人がその場において初めて作品が完成するのが体感型アートの醍醐味です。リモートでは感じることでできない新感覚のアートを、ぜひ美術館で体感してください。※当イベントは事前ネット予約による、完全入れ替え制です。詳しくはホームページをご覧ください。

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話☎(585)7800でお問い合わせください。

## いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本



### みんなの読書活動

市制施行50周年を記念して「みらい懇談会提言書～夢と希望に満ちたこれからの守山」の一つに「読書日本一のまちづくり」が掲げられました。

岡市立図書館 ☎・☎(583)1639 ☎(583)6949  
社会教育・文化振興課 ☎・☎(582)1142 ☎(581)2733

**質問** 勉強が忙しくなる中学生はどうやって本に親しんでいるの？

**答** 本の紹介やランキングなど、学校司書が工夫しています

市立中学校では、子どもの本への興味や関心を高める図書室づくりを行うために学校司書を配置しています。

学校司書は、話題の図書や新刊書に簡単な紹介文などを添えて見やすいように並べたり、校内の人気図書ランキングを表示したりするなどして、子どもたちが本を手に取りたくなる工夫をしています。このような取り組みで、中学生の子どもたちも本に親しんでいます。

最近はコロナ禍の外出自粛などで、読書の良さが再認識されています。中学校の図書室も、本好きの中学生でにぎわっています。



④話題図書の紹介コーナー  
⑤本好きでにぎわう中学校図書室

